

あなたと^で出^あ逢って

■ 楽曲データ

歌詞：江崎とし子 作詞

楽曲：江崎とし子 作曲

発表：本願寺仏教音楽・儀礼研究所 2011年

初演：「御正忌報恩講奉讃演奏会」 2011年1月15日 聞法会館

初出：『親鸞聖人750回大遠忌法要記念 本願寺音御堂』 本願寺出版社 2011年

管理番号：M2661

■ 創作の経緯

2010（平成22）年、本願寺仏教音楽・儀礼研究所（現・浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室）の委嘱により創作され、翌年発表された。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第6巻収録

底資料：自筆譜

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

星の数ほどある歌のなかに、なぜか忘れがたいメロディーというものがあります。一度耳にただけで、その世界に思わず聴き入ってしまう曲があります。この誌面をお読みの皆さんもそれぞれに、ご自分の1曲というものをお持ちなのではないでしょうか。

さて、今年（2011年）、新しくひとつの仏教讃歌が生まれました。頬をなでる柔らかな風のように、そっと私たちの心に触れ、声高ではないけれども、確かなメッセージを伝える曲《あなたと出逢って》です。

今回は、完成間もない作品ということもあり、創作にあたって気を配られたことなど、作り手である江崎とし子さんにお話を伺いました。江崎さんは京都府出身で、シンガーソングライターとして活躍しています。江崎さんご自身の曲への思いをご紹介しつつ、この歌の魅力について書いてみたいと思います。

石川：歌詞と音楽が一体になった、親密でとても素敵な曲だと思います。歌詞を先に書かれるのでしょうか。

江崎：基本的にメロディーから先に書くのですが、大体の歌詞の内容を想像

しながら創作しているので、時に歌詞の一部がメロディーと同時に出てくることがあります。

この歌は、小さきものへ眼差しを向けられるところからはじまっています。冒頭の歌詞を読んでみましょう。「陰日向耐えしのぶ 一輪の咲きぎま」や、「静けさに揺るがない 一粒の輝き」という一文は、日本語の訓読みの柔らかさが、そのままメロディーとなって流れ出たかのように、歌詞自体がすでにとっても音楽的だと思います。歌詞と音楽が同時にできあがる瞬間があるということですから、もしかすると、言葉がメロディーを求め、メロディーの響きに言葉が呼応する、というようなことなのかもしれません。

石川：「一輪の咲きぎま」、「一粒の輝き」という表現がとても印象的です。どのような思いでお書きになったのでしょうか。

江崎：私自身は、どんなものでも、どんなことでも必ず意味があると日々思っています。小さなものに対して「リスペクト（畏敬の念）」できたら素晴らしいと思います。

冒頭の一連の歌詞は、特別なことの何もない自分自身を重ねて読んでしまいます。この場面が私たちの心を打つとするなら、それは語り手の観察眼によって、日常のひとこまが開かれ、彩りを得たということなのではないでしょうか。

石川：「あなた」という言葉が発せられるとき、そこにはさまざまな感情が含まれていると思いますが、この曲の「あなた」とは、仏さまのことだと考えてよいでしょうか。

江崎：そうですね。この曲では「阿弥陀さま」でしょうか。

歌う人は、それぞれに仏さまと特別の「出逢い」があったことでしょうか。その「出逢い」をめぐるさまざまな思いを、「あなた」の3文字は受けとめています。含蓄に富む「あなた」なのだと思います。そしてやはり、この歌の要は、2番でも繰り返される「あなたと出逢って わたしは今ここに」の部分にあります。「今ここに」という言葉は、仏さまに対する深い感謝の念がきわまり、気持ちが奮い立ったときに洩れた喜びの表現だと捉えることができるでしょう。

石川：ここは大切に歌ってほしい、大切にしてほしいという点をお聞かせください。

江崎：やはり「サビ」の部分（あなたと出逢って～）でしょうか。歌詞の内容を情景として頭に浮かべながら、心を込めて歌っていただければ幸いです。

歌は、「いまここに」と言った後、4分休符（1番）をおいて次のフレーズに入っていきます。この休符が曲の頂点をなすと考えてよいと思います。曲のなかで凝縮された一点があるとすれば、まさにこの休符がそうでしょう。「今ここに」であらわされた歓喜の表情が、次の高い「ミ」の音からはじまるフレーズに受け渡され、歌の最後まで維持されています。メロディーが美しいだけに流されないように気をつけて、歌詞の意味を深く味わいつつ歌いたいものです。

石川：音楽について、工夫されたことはありますか。

江崎：なるべくシンプルで、覚えやすいメロディーになるように心がけました。

江崎さんは、この曲を自然な息遣いで歌えるように仕上げてくださいました。それでいて、歌いごたえのある、スケールの大きな曲です。途中で転調（メロディーは同じで音楽の雰囲気が変わること。より高揚した感じになる）があり、歌う人が各々で盛りあがりを作れるようになっています。「わたし」が「あなた」に向けて、素直な心を吐露するという気持ちで歌ってみてはいかがでしょうか。ぜひ多くの方に知っていただきたい曲です。

解説執筆：石川紀久子（元・本願寺仏教音楽・儀礼研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所] 委託研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 87（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第214号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.